

「芸術鑑賞教室」感想文

2年7組 藤原 千愛

映画鑑賞の学習で「とんび」を見ました。昔の家族のカタチ、家族の温かい愛をすごく感じられる作品でした。

私が特に印象に残っているシーンは夜中にみんなで海を見に行く場面です。お母さんが死んで間もない頃、おじいちゃんの指示で雪の降る夜中にみんなで海へ行きます。そこでおじいちゃんはわざと旭に“寒さ”を感じさせます。寒くて震えてる旭を少しでも暖めてやろうと父のヤスは旭を抱っこして強く抱きしめます。そんな2人を見ながらおじいちゃんは旭に「寒いかな？」と聞きます。震えながら「寒いよお」と答える旭の背中におじいちゃんは手を当てて言います。「お母ちゃんがおらん代わりにこうして背中を暖めてくれるやつがぎょうさんおる。」お母さんはいないけれどひとりぼっちでは無いということを教えてあげます。そしてヤスには、「海はなんぼ雪が降っても知らん顔して黙って呑み込んでるわ。旭に悲しみを降らすな。ヤス、お前は海になれ。お前は海にならんといけん。」と言うシーンです。このシーンを見て、私は号泣しました。

私の家族は幸せなことに、片親ではなく父母どちらもいる家族のカタチだけれど、世の中には色々な家族のカタチがあって、この映画のように、片親だけど周りの人が沢山支え育ててくれるというカタチもあるのだなと思いました。

どんなカタチであろうとも、それぞれにそれぞれの良さがあって、それぞれにそれぞれの温かさがある。このシーンを通じて、色々なカタチの家族愛があるのだと学び、改めて、家族がいて今の生活が出来ているのは当たり前ではない。当たり前には思わず、家族や日常を大切にしよう。と思うことが出来ました。

この映画には他にも沢山の感動のシーンがあります。たえ子の娘とのハマグリのシーン。旭が子供の頃に出来なかった御神輿を大人になってからヤスと2人でやるシーン。照庵の仕掛けにまんまとハマったヤスが本音を言うシーン。様々な場面で自分自身について考え直し、心を改めることが出来る映画でした。

重松清さんの原作やほかの作品を読みたいと思いました。

